

教育目標

知識を求め 情操を豊かにし 進んで実践する生徒

【教育目標について】

- 「知識を求め」は、いわゆる汎用能力的な資質・能力と考えます。当校では、生徒が知識を身に付ける場面で、課題を探究する過程を大切にしています。
- 「情操を豊かにし」は、心の活動によっておこる感情で、知的、美的、道徳的など、崇高なものと考え、精神的な豊かさを育みます。
- 「進んで実践する」は、より良い生活を目指して行動する力と考え、実行力を育てます。教育目標から、目指す生徒像を、「目標をもって生活し、自分の考えを相手に伝える生徒（小中一貫して目指す子どもの姿）」ととらえています。

【教育方針について】

当校は、多くの生徒が明るく素直で、前向きに生活しています。

学習に意欲的に取り組む生徒が増えました。しかし、学習に対して苦手意識をもっている生徒もいます。そこで、学習への興味・関心を高めるため、授業では「かかわり合いや学びを深める取組」の実践を、家庭ではメディアコントロール力向上を推進しています。

他を思いやる心優しい生徒が多いです。反面、人間関係づくりがうまくできずに心を痛める生徒や、他者を思いやることができずに自己中心的になってしまう生徒がいます。そこで、認め合い、助け合い、期待をかけ合い、高め合う、温かい学級の支持的風土の醸成を、全校体制で取り組んでいます。

生徒会活動では、「あいさつ・時間・身だしなみ・言葉遣い・プラスワン活動・掃除」の頭文字『あじみこ+そ』をスローガンに掲げています。毎月の生徒朝会で、生徒会本部や各専門委員会が活動を振り返り、生徒が主体的に生活向上を目指す活動を進めています。

激しく変化する社会の中で、困難な状況に直面したときに、それを受け止め、状況を把握すること（メタ認知）が大切です。その上でプラス思考を働かせながら、社会の一員として、粘り強く困難に立ち向かい、自己のもつ資質・能力や学びによって得た知識、情操、体力を駆使し、解決していくことができる生徒を育みます。

そのために、集団の中で共に学び合い、支え合いながら高め合うとともに、活動後の振り返りを重視した教育活動や行事を編制します。自ら考え、判断し、自分の考えをアウトプットする場面を設定することにより、生徒の資質・能力の伸張を図ります。

新潟市立山の下中学校長 武藤 雅雄

新潟市立山の下中学校のホームページをご覧ください、ありがとうございます。当校の教育活動につきまして、変わらぬご理解とご協力をいただきますようお願いいたします。
